

# 令和5年度山形県動物愛護推進協議会議事概要

## 1. 山形県動物愛護管理推進計画の取組状況について

### 【委員】

各市町村の避難所におけるペット同行避難受入状況について、一部の避難所で受入れ不可としている理由は何か。

### 【事務局】

高齢者や体の不自由な方を優先して受け入れる避難所もあり、そのようなところは同行避難不可となっている場合がある。

### 【委員】

動物愛護（管理）センターにおける犬猫の収容後の処分について、猫の返還率が犬と比較し非常に低いが、その理由は何か。

### 【事務局】

収容される猫は、遺棄や負傷による保護が多く、飼い主のいない場合がほとんどであるためと考えられる。

### 【委員】

令和5年3月に開催された飼い主のいない猫対策セミナーについて、地域猫活動の話はとても参考となった。しかし、一般参加者の多くは、自宅敷地内に子猫を産み落とされた等身近な問題で困っていることを理由に興味を持ち参加しているため、地域猫活動に取り組むまでの状態には至っておらず、理解が難しいところもあったのではと感じた。

### 【事務局】

猫により生活環境へ被害が発生している場合の対応に関するセミナーであったが、地域猫活動の話題が中心となることをお知らせの際に伝えるべきであった。

### 【委員】

令和5年2月に開催された人とペットの災害対策セミナーでは、行政担当者や動物愛護推進員が多数参加したが、一般飼養者の参加は少なかったように思う。次回以降は工夫が必要ではないか。

**【事務局】**

次回以降、より多くの一般飼養者による参加があるよう、内容や告知方法を検討したい。

**【委員】**

猫の遺棄件数について、令和元年度から令和4年度までほぼ横ばいとなっているなか、令和13年度までに半減することを目標としているが、具体的な対策手段として検討していることはあるか。

**【事務局】**

屋内飼養と不妊去勢の徹底を周知することを続け、遺棄される子猫を減少させていきたいと考えている。計画を推し進めることで適正飼養を啓発し、総合的に対策していきたい。

**【委員】**

法改正により一般飼養者による飼い犬、飼い猫へのマイクロチップの装着が努力義務となったが、まだまだ周知が進んでいないと感じている。ペットショップ等にチラシ、ポスターを掲示してもらうこと等により普及を図ってはどうか。

**【事務局】**

県獣医師会の協力を得て動物病院に掲示いただいているが、さらに普及するよう、周知方法を検討したい。

## 2. 第40回山形県動物愛護フェスティバルの実施結果について

**【委員】**

動物愛護フェスティバルは、ペット防災等について周知するのにとても適していたと思うが、参加者のさらなる増加のため、SNSを積極的に活用する等、告知方法を充実させた方が良かった。

**【事務局】**

次回以降、さらなる集客があるよう、ツールも含め告知方法を検討したい。

### 3. その他

#### (1) 県内の動物愛護等に関する活動について

委員から各地域における動物愛護活動について報告があった。

##### 【委員】(村山地域)

多頭飼育崩壊が数件あり、協力させていただいた。保健所の動物愛護管理担当と市町村の福祉担当の連携により、解決に向けた対応が迅速になったように感じる。さらなる課題解決のため、動物愛護管理担当者には、動物に関する専門的な知識を活用し、より相談者に寄り添った形で細やかな対応を行っていただくことを希望する。また、保健所毎に対応について、より統一化が図られるよう努めていただきたい。

##### 【委員】(庄内地域)

多頭飼育崩壊への対策は、飼養者の金銭的な課題により滞ることが多い。そのため、市町村による不妊去勢手術費用の補助は重要だと考えている。まだ制度を導入していない自治体には導入を検討するよう働きかけている。

#### (2) ペット同行避難マニュアルの活用状況について

##### 【委員】

ペット同行避難マニュアルについて、今年の協議会で活発な議論があったが、その後、各市町村等からの指摘や反応、現場での活用や課題、周知状況について教えて欲しい。

##### 【事務局】

一部の自治体では、ペット同行避難を盛り込んだ避難訓練に着手している。しかし、内容の認識はまだ十分とはいえないと感じており、今後も周知を続けていく必要がある。

##### 【委員】

ペット同行避難マニュアルについて、市町村防災担当者の理解をより深めるために今後行う予定の取組みはあるか。

##### 【事務局】

市町村防災担当者会議で周知を図るなど、引き続き働きかけを行っていく。

### (3) 犬の苦情数の増加について

#### 【委員】

今年度に入り、犬の鳴き声関係の苦情が例年の3倍以上寄せられている。秋に入り増加している傾向があるので、窓が開放されることでそれまで聞こえなかったものが聞こえるようになったことも理由であると考えられるが、他に何か考えられる理由があるか。

#### 【委員】

近年、犬の長寿命化に伴い、高齢化が進んでいる。高齢になると夜中に吠えるといった異常行動も見られることがある。

#### 【委員】

吠えることについて十分なしつけがなされていない可能性も考えられる。

### (4) 飼い主のいない猫対策、地域猫活動関係について

#### 【委員】

県内で地域猫活動として成功している事例は少なく、TNR<sup>\*</sup>して餌をあげているという状況にとどまっているパターンがほとんどだと感じている。それを地域猫活動と呼称していることが多いため、認識があやふやになってしまっている状況である。

飼い主のいない猫については、保護するにしても施設の収容頭数に限度があるため、不妊去勢手術の実施により長期的に対策していく必要があると考えている。

#### 【委員】

県内において、地域猫活動は実際に有効なものなのか。また、県内の事例を把握しているか。

#### 【事務局】

地域の同意が得られず、地域猫活動まで至らないケースもあるが、全国的には成功して猫に関する苦情が大きく減少したという事例も報告されている。県内の事例をすべて把握しているわけではないが、一部活動について、メディアで取り上げられたこともあり、成功事例として認識している。

## 【委員】

以前に比べれば猫の室内飼養はかなり増えていると感じている。一方で、未だに野良猫に対する餌やりを無責任に行っている人もいるようである。適正飼養について粘り強く啓蒙していくことが必要である。

ペット同行避難については、本県は災害が少ないこともあり、なかなか具体的な体制の整備に向けて切羽詰まった状況になっていないのではとも考えられる。例年、県と自治体で開催している防災訓練に、今後は獣医師会からも参加することで、新たな関係性を構築できるのではと考えている。

※TNRとは、①猫を捕獲する(Trap)、②猫に不妊去勢手術を施す(Neuter)、③猫が生活していた元の地域へ戻す(Return)の頭文字をとったものであり、飼養者のいない猫を今以上に増やさないための取組みのこと。